



男子レーザー級のレースを終え、ガッツポーズの南里研二。東京五輪代表に決まったニメルボルン(日本セーリング連盟提供)



南里 研二

# 南里(佐賀市)出身)五輪代表

## セーリング男子レーザー級

セーリングの男子レーザー級世界選手権最終日は16日、メルボルンで行われ、

百五銀行(三重県)の南里研二(27)は佐賀市出身、唐津西高卒IIが日本勢トップの63位となり、東京五輪代表に内定した。佐賀県関係で五輪出場が決まったのは、セーリング男子470級の岡田奎樹(24)は唐津西

高卒IIと、テコンドー女子57kg級の濱田真由(26)は佐賀市IIに次いで3人目となる。

南里は、日本セーリング連盟が日本代表選考レースに指定した2019年7月の世界選手権(鳥取・境港)で57位となり、日本勢唯一のポイントと出場枠を獲得。最終選考の今大会でも日本勢トップとなり、選考会の総合得点トップが確定し、代表の基準を満たした。南里は初の五輪で、日本勢のこの種目での五輪出場は2008年の北京大会以来、3大会ぶり。南里は小学3年から玄海セーリングクラブで競技を

始め、唐津西高時代は国体少年男子で3連覇を達成した。卒業後は県ヨットハーバーで働き、国際大会や国体に活躍した。現在は県外に活動拠点を移している。南里は「今大会は真ん中くらい(の成績)でまだまだ速くならないといけない。五輪までにトップと走れるよう頑張る」とコメントした。(古川浩司)

